

# 安心歩行エリア基本計画作成 <ワークショップ活動>

## 1. 安心歩行エリア基本計画の目的

安心して快適に道路を利用できるように、実際に道路を利用する地域住民が危険箇所について意見交換し、整備箇所の課題、整備の方向性について話し合い、「安心歩行エリア基本計画」を作成します。

この「安心歩行エリア基本計画」は、**コミュニティの総意**で作られた整備目標として、市の道路整備においても重要視される計画となります。

## 2. ワークショップのメンバー（例）

- <地域住民全体の意見を吸い上げる>
- ・コミュニティ役員および事務局等
  - ・学校関係者（教諭・PTA・子供会）
  - ・保育園関係者（保護者会）
  - ・その他（地域の関係者）
  - ・まちづくり市民委員
  - ・事務局（市土木課）

## 3. ワークショップの流れ（イメージ）

### ① ワークショップ説明会<第1回WS>

ワークショップを円滑に進めるため、ワークショップの進め方（対象とする路線・作業グループの分け方等）を話し合います。



### ② 危険箇所の確認<第2回WS>

コミュニティ内の危険箇所について意見交換・リストアップを行い、各箇所の整備課題・方向性を話し合います。



### ③ 整備の重要性和整備内容の協議<第3回WS>

第2回WSの内容（危険箇所、整備課題・方向性）を確認し、整備の重要性・整備内容を具体的に話し合います。



### ④ 基本計画のまとめ<第4回WS>

第3回WSの内容を受け、コミュニティ内の整備すべき危険箇所について、整備順位・整備内容を整理した「基本計画」をまとめます。

## 4. 整備課題と整備内容（加木屋南コミュニティの例）



### 保育園外周道路

←改良前(整備課題)  
保育園の送り迎え等の歩行者が多い道路。  
通学路でもあるが、歩道が設置されていない区間があり危険。

### 改良後(整備後)→

路肩のカラー舗装により、歩車道の区分をわかりやすくする。



### 泡池交差点 ～小学校交差点

←改良前(整備課題)  
交通量が多い補助幹線道路。  
通学路だが歩道幅員が狭く、電柱や標識などの支障物もあり危険。

### 改良後(整備後)→

電柱や標識を片側に移設、歩道のフラット化、拡幅、歩車道境界ブロックにより、歩車道の区分をわかりやすくする。



### 小学校正門前付近

←改良前(整備課題)  
交通量が多い補助幹線道路。  
小学校正門前で小学生が多く、車道にはみ出すこともあり危険。

### 改良後(整備後)→

歩道の拡幅、歩道・車道の分離により、歩車道の区分をわかりやすくする。

